

日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議（第3回）
議 事 要 旨

○日 時：令和2年9月10日（木）15：00～15：30

○場 所：官邸4階大会議室

○出席者：岡田内閣官房副長官（議長）、藤井内閣官房副長官補（議長代理）、
宮田文化庁長官（議長補佐）、平田内閣官房東京オリンピック・パ
ラリンピック推進本部事務局長（議長補佐）、木村内閣官房内閣審
議官、吾郷内閣官房アイヌ総合政策室次長、行松内閣官房まち・ひ
と・しごと創生本部事務局次長、藤原東京オリンピック・パラリン
ピック推進本部事務局総括調整統括官、渡邊内閣府知的財産戦略推
進事務局次長、稲原宮内庁長官官房参事官、野井警察庁長官官房審
議官（国際担当）、竹村総務省大臣官房総括審議官（情報通信担当）、
志野外務省大臣官房国際文化交流審議官、木村国税庁長官官房審議
官、串田文部科学省大臣官房総括審議官、中岡文化庁次長、赤澤厚
生労働省社会・援護局障害保健福祉部長、池山農林水産省大臣官房
輸出促進審議官兼食料産業局、山本経済産業省商務・サービス政策
統括調整官、高橋観光庁次長、鳥居環境省自然環境局長

1 開 会

2 議 事

（1）日本博について

（2）意見交換

3 閉 会

（司会：木村内閣官房内閣審議官）

1 開会

(報道関係者入室)

冒頭、岡田内閣官房副長官から、以下のとおり挨拶があった。

- 「日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議」の議長として、一言御挨拶申し上げます。ここにお集まりの皆様におかれては、日本博の成功に向けて御尽力いただいていることに感謝申し上げます。
- 現在、政府を挙げて新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に取り組んでいるところであり、日本博関連のプロジェクトの中には、中止、延期、変更を余儀なくされたものもある。
- しかし、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外に向けて発信する「日本博」の重要性は、この国難とも言える状況下においても何ら変わることはないと確信している。
- そのような考えのもと、主催者の様々な感染防止対策等の努力により実施されるプロジェクトも出てきており、さらには映像コンテンツの活用による発信など、これまでになかった斬新な取組も行われているものと承知している。
- 本日は、文化庁からこれまでの実績に加え、コロナ禍において「日本博」を進めていく上での様々な工夫について報告をいただき、グッド・プラクティスの共有を図りたい。
- 関係府省においては、コロナ禍における「日本博」の成功に向けて、本日、積極的な発言をいただくとともに、今般の状況下における「日本博」がより充実した内容となるよう、多言語映像による国内外発信や新たな文化プロジェクトの試みなどに力を入れ、共に推進していただくようお願い申し上げます。
- 御案内の通り、東京オリンピック・パラリンピック競技大会は来年に延期された。「日本博」も、来年度を新たな本番の年とし、また来年度以降における成功を確実なものとするため、本日お集りの皆様をはじめとする関係者の総力の結集を改めてお願い申し上げ、私の挨拶とする。

(報道関係者退室)

関係府省連絡会議の公開・非公開の扱いや資料の取扱い等については、参考資料2のとおりとする旨了承。

2 議事

(1) 日本博について

中岡文化庁次長より、資料1に基づき、「日本博」の実施状況等について説明があった。

(2) 意見交換

出席者による意見交換が行われた。主な発言は以下のとおり。

【吾郷内閣官房アイヌ総合政策室次長】

- 北海道白老町に、ウポポイを本年4月24日に開業する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて延期し、7月12日に開業したところ。
- 新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、開業後、約7万に来ていただいたところ。
- 今後も引き続き、感染拡大防止対策を徹底しながら、アイヌ文化の素晴らしさを体験していただけるよう取り組んでいく考えであり、関係府省に置かれても、ウポポイの広報等に是非とも御協力いただきたい。
- また、アイヌ施策推進法に基づき、例えばアイヌ文化の体験交流事業の実施やアイヌ文様を施したラッピングバスの運行などの市町村が実施するアイヌ政策に関する幅広い取組を交付金により支援しているところ。今後とも共生社会の実現に向けて取り組んでまいりたい。

【渡邊内閣府知的財産戦略推進事務局次長】

- クールジャパンは文化芸術をはじめとする日本の魅力を海外に適切に発信することにより、日本ファンを増やし、日本のソフトパワーの強化を目指す取組である。
- 本年5月に決定した知的財産推進計画2020においては、コロナ後のニューノーマルの社会に必要な政策の方針を示したところ。クールジャパンについて

は、これまでのリアルに重点を置いた取組からオンラインやデジタル技術など新たな手法による取組を追加し、ファンの拡大を目指すことが重要だと考えている。

- 関係府省と連携し、コロナ後の社会に相応しい取組を推進することによって、文化芸術など、日本の魅力の発信に繋げてまいりたい。

【志野外務省大臣官房国際文化交流審議官】

- 文化庁から素晴らしい映像コンテンツが紹介された。こういうものがあると、これまで日本文化について首都圏にいないと、あるいは大使館からの招待等がないと味わえなかった人たちが、場所、時間を問わずどこでも味わえ、享受できるようになる。「日本博」の多言語映像コンテンツを積極的に提供していただき、各在外公館のSNSやホームページ等を通じて、広報していきたい。
- 現在、文化庁とも連携しつつ、「KIMONO展」や「体感！日本の伝統芸能」などを積極的に発信している。
- そのほか外交団ツアー、海外メディア展開などもあるが、「日本博」の成功に向け、外務省としても積極的に協力してまいりたい。

【木村国税庁長官官房審議官】

- 国税庁においては、今年度、「日本博」の基本コンセプトである「日本の美」、「食文化・自然」等にもつながる新規施策として、「酒蔵ツーリズム推進事業」を実施している。
- 酒蔵は、地域の歴史、文化又は風土を体験する上で重要なアセットであり、新型コロナウイルス感染症収束後における訪日観光の再活性化の観点からも、酒蔵ツーリズムは大きな可能性を秘めている。
- 酒蔵の持つ文化的側面も意識しつつ、こうした事業を通じて、酒蔵ツーリズムを地域に根付いた取組として育てつつ、海外に日本文化を発信し、国税庁としても「日本博」の機運醸成に努めてまいりたい。

【赤澤厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長】

- 文化庁からも紹介いただいたとおり、厚生労働省では、昨年度から文化庁と連携して「日本博」の主催・共催型プロジェクトに取り組んでいる。

- 今年度は、全国4箇所で開催する「障害者の文化芸術フェスティバル」と、国内外の障害のある方々によるダンスプロジェクトの2つを、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、舞台公演を無観客でオンライン配信するなどの工夫をして、実施している。
- 引き続き、障害のある方々の文化芸術活動が継続して推進され、日本の芸術・文化の魅力が再認識されるよう取り組んでまいりたい。

【池山農林水産省大臣官房輸出促進審議官兼食料産業局】

- 「日本博」プロジェクトである国立科学博物館での特別展「和食～日本の自然、人々の知恵～」は、今年開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、やむなく中止となった。その後の検討で、2023年に延期し、改めて開催することとなっている。
- 農林水産省としても引き続き開催に向けてサポートするとともに、「自然を尊重する」という特徴を持った日本各地の多様な食文化の魅力について、国内外での効果的な発信や更なる価値付けに努めてまいりたい。

【高橋観光庁次長】

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、現在、インバウンドは非常に厳しい状況である。
- 国内観光においては、観光需要喚起と感染拡大防止の両立を図るべく、参加事業者と旅行者双方が着実に感染症拡大防止策を講じることとしており、「安全で安心な新しい旅のスタイル」の普及・定着を目指している。
- 今後、インバウンドに関しても、安全・安心な目的地として我が国が世界中の観光客から選ばれるよう、環境づくりを行った上で、我が国の自然や伝統文化、歴史など、日本各地の観光資源の魅力に深く触れて頂くことで、インバウンド回復の道のを確かなものにしていきたい。
- このような中、「日本博」の取組は、日本の美を体現する我が国の文化芸術を発信し、海外の皆様への日本文化に対する理解・関心を高める極めて重要な取組であると認識している。文化庁から訴求力のある動画を紹介いただいた。観光庁としても、世界中の旅行者の方々に日本の文化芸術の神髄を深く知っ

て頂き、日本の本質を深く体感・体験していただけるよう、関係府省の皆様と、しっかりと協力・連携を進めてまいります。

【鳥居環境省自然環境局長】

- 映像でも御紹介いただいたが、国立公園に関する企画展については、文化庁とも協力して国立科学博物館で開催している。
- 環境省としても、全国34の国立公園を紹介するに当たり、写真の提供や展示作成の協力を行った。
- 展示においては、熊本・阿蘇の野焼きの道具や、伊勢志摩の海女さんの衣装を紹介するなど、自然環境だけでなく、そこでの人々の営みや文化も知っていただく工夫を行ったところ。
- また、会場では4K映像で全国の国立公園のよりすぐりの自然を紹介しているので、機会があればご覧いただければと思う。
- さらに、皇居外苑で開催する特別公演についても、文化庁と協力して実施していく。

【藤原東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局総括調整統括官】

- 来年に延期された東京大会の開催に向けて、オリパラを契機とした文化プログラムについても、新型コロナウイルス感染症対策を実施した上で、安全・安心な環境を整えながら、大会に向けた機運醸成を図っていくことが重要である。
- 大会組織委員会による「東京2020 NIPPONフェスティバル」、東京都による「Tokyo Tokyo FESTIVAL」においては、年内中止が発表されているところだが、再開に向けた検討が進められていると伺っている。
- 引き続き、政府における「日本博」や「beyond2020プログラム」がそれぞれ連携し、文化プログラムを効果的に実施できるよう、引き続き御協力をお願いしたい。

本日の議論を踏まえ、宮田文化庁長官、平田内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局長から、以下のとおり発言があった。

【宮田文化庁長官】

- 新型コロナウイルス感染症が我々に与えた影響は大変大きなものとなっている。「日本博」も、残念ながらオープニング・セレモニーをはじめとし、様々なことに困難が生じた。今後についても簡単には見通せない。
- しかし、このような難しい状況こそ、文化の出番である。詳細は、先ほど中岡から説明したとおりだが、「日本博」の関係者も、それぞれのプロジェクトを実現できるよう、また、会場に足を運べない方々が家で楽しめるよう、自分たちにできることは何かと知恵を絞り、汗をかいている。
- 諸説あるが、ヨーロッパのルネサンスが開いたのは、ペストの大流行により、それまでの価値観が崩れたからだとも言われている。今は大変だが、我々は必ず乗り越えられるはずである。
- 「日本博」のロゴマークは、もちろん現在のよう状況になる前にデザインしたものではあるが、あの太陽はまさにアフターコロナの日本の文化であるということを表すようになっているのではないかと考えている。
- 常々言っているが、私は、国内外の多くの人々に感動を与え、歴史に残り、生き続けていき、より発展する、これが「日本博」だと考えている。
- そのためには、皆様をはじめとする様々な方々の御指導が必要であり、引き続き「日本博」への御理解と御協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【平田内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局長】

- 各府省が連携していただき、beyond2020や試行プロジェクト等により得られた成果をもとに、「日本博」を中心に、日本全国において、伝統文化からメディア芸術、商品・サービスまで、様々な団体による幅広い文化の発信が展開され、多言語化やバリアフリー化も、着実に浸透してきていることを実感している。

- ウィズコロナ時代における「日本博」の新たな取組として、オンライン配信やバーチャルツアーなど、新しい形での文化の発信も始まっており、幅広い層において日本文化に触れる機会の拡大も期待されている。
- 来年に延期された東京大会の開催の実現に向けて、9月4日、先週金曜日、新型コロナウイルス感染症対策について総合的に検討する会議を設置し、議論を開始したところである。来年度に向けた文化プログラムについても、大会が開催される来年こそが本番であり、各地で展開していくことが重要である。
- また、オリパラ大会後のレガシー創出も見据えて、地方の活力増大や観光需要の喚起につなげるというところに、「日本博」が起爆剤となることを期待している。関係府省がより一層連携して取り組んでいただきたい。

3 閉会

最後に、岡田内閣官房副長官から、以下のとおり閉会の挨拶があった。

- 文化庁から説明があった通り、今年度後半の「日本博」プロジェクトについては、必要に応じて時期等の調整もしながら極力実施していきつつ、可能な範囲で多言語による映像コンテンツの制作・発信等を行っていくこととした。
- また、平田事務局長からもお話があった通り、来年7月のオリパラ開催に向けた準備がなされているので、「日本博」についても、コンテンツの制作・発信にも力を入れつつ、新たな環境を見据え、国内観光需要・インバウンド需要の喚起を目指してまいりたい。
- 「日本博」の持つ意味は新型コロナウイルス感染症によって減少するのではなく、ますます重大になっている。災い転じて福と為して、日本の文化が新しく花開き、世界の国々に向かっていくため、大変厳しいが、未来に向けて重大な局面にあると考えている。
- 皆様におかれては、「日本博」がより充実した内容となるよう、政府一丸となって推進していただくことを改めてお願い申し上げます。

○これをもって、「第3回日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議」を終了する。重ねて、皆様の御尽力を心からお願いを申し上げて挨拶とする。

(以上)